

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	介護付き有料老人ホームにおける施設看取り率の調査および施設看取り率の施設間格差に関する調査研究
演者名	久富 護
所属	株式会社メディヴァ コンサルティング事業部

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

【目的】

各種アンケート結果等で「住み慣れた場所で最期を迎えたい」と考える人が多い中、介護付き有料老人ホーム利用者で、最期を迎える場所が病院となった利用者が多く存在する。

本調査では各施設利用者の死亡場所（施設看取り率）の調査、および各施設間で結果に差が認められた場合、その原因を検索することを目的とする。

【方法】

2012 年 4 月～2014 年 8 月において介護付き有料老人ホーム 33 施設入所中に死亡した 391 名の死亡場所を施設と病院に分類し、各施設の総死亡数に対する施設死亡数の割合（施設死亡率）を算出した。また各施設間での施設死亡率の差の原因を推察するため、施設死亡率と入居金などとの相関の調査やステークホルダー（施設看護師、ホーム長等）にヒアリングを行った。

【結果】

調査期間死亡数が少数の施設も散見されるため、調査期間死亡数 10 名以上の施設で結果を算出した。これらの施設の施設看取り率は、最小値 36.8%、最大値 90.9%（全体 62.1%）となり、その結果に大きな差が生じた。また、施設死亡率と入居金などの相関関係においては緩い相関が認められた。その他、ヒアリング等では、利用者家族の考えや、施設の治療方針などにより施設死亡率が影響を受けることが示唆された。

【考察】

本調査では、様々な要因が施設利用者の死亡場所に影響を与えていることが示唆された。今後、それらの影響を極力少なくし、より多くの利用者が希望する場所で最期を迎えるようなマネジメント方法を導き出す必要があると考えられる。